

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	「オープンラボ」を通じたプロジェクト・ベースド・ラーニングと地域産業振興				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子

講演題目	プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><b>① 研究目的</b>  国保研究室では、3年次のゼミ活動をプロジェクト・ベースド・ラーニング形式で実施している。学外の企業やNPOから与えられた具体的な経営課題をプロジェクト課題として半年間とりくみ、学期毎に公開報告会を開いている。ご協力いただく地元企業との協働にあたっては、地域のネットワークと支援実績が豊富なNPO法人ESUNEの力を借り、協働先の紹介や、プロジェクト期間中の企業とのコミュニケーションを支援していただいた。プロジェクト学習の内容については教員が指導するが、協働先企業との関係構築の部分ではこのような第三者の支援を得ることで、学生にとっての高い学習効果と、企業にとっての価値のあるアウトプットの両立が可能になると感じている</p> <p><b>② 成果</b>  2024年度は、前期に県大文化通信様と事業承継コミュニティプロジェクトチーム様、後期に静岡新聞様、共立アイコム様、加和太建設様、グリーンパークあさはた様と、のべ6団体との協働プロジェクトを実施し、最後は提案にまとめてプレゼンテーションをした。大きなトラブルも無く複数のプロジェクトを全うすることができたのは学生と企業のコミュニケーション支援を担ってくれたコーディネーターの存在が大きい。</p> <p><b>③ 今後の展望</b>  課題を改善し続けていることもあり比較的問題なく実施できたが、企業側はすぐに現場で活用できる具体的な提案を期待しているという場合もある。しかし学生に対する学習効果としては本質的な課題を見つけることに重点を置く必要があるため、企業側からの期待値を適宜調整する必要があった。こうした実社会でも高く評価される成果と学生への学習効果を両立するためにはプロジェクトのコーディネートが重要であると感じている。</p>